

## あ　と　が　き

この集録を発刊するまでに、数学教育現代化の主旨をふまえた関数指導の体系を、どのような観点や方向づけをもって作成すべきかを、ある時は小中高合同で、ある時は小中高校別に、各自が研修日までに作成した案を基にして討議し、問題点をうきほりにしては、その解決の方法を次回の研修日までに各自が研究をしていくという手順をへながら決めてきたものであります。それは、研修員全員が同じ観点にたつて、小中高校の関数指導を展望することを要求しているものであり、また各研修員の数学的識見も同レベルであることをも要求していたもので、各研修員の苦労は大変だったと思います。

当センターでは、数学科がはじめて、一つのテーマによる協同研究を試みたものであります。このために他教科よりも研修日をふやして研究を重ねたにもかかわらず、じゅうぶん検討ができなかったところもあります。研修員の先生方も2年くらいの研修ならよかったともらしておりました。

じゅうぶんに研究討議しつくせなかった指導体系でしたが、指導上問題となる所を特に指導のねらいをきめて、研究授業を各研修員が行ない、それを数人が参観をして意見交換などもしたものであります。したがってこの集録は、今後の関数指導の一つの資料になるものと信じております。なお、この研究授業に多大の協力をいただきました関係学校の校長先生はじめその他の諸先生方に厚く御礼申し上げる次第であります。

1970年3月

新潟県立教育センター 数学研究室